

森の通信

ウータン

SAVE THE TROPICAL FORESTS

27

HUTAN

1993年3月14日発行



Grey-bellied Squirrel

ウータン・森と生活を考える会

〒530 大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館308号「関西市民連合」事務所気付
phone 06-372-1561

【一部】300円

【年会費】2000円

【郵便振替】大阪3-3880

PRINTED ON RECYCLED PAPER

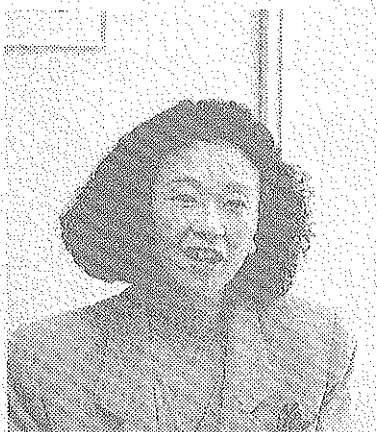
。スタッフ号振りひとま。

everybody on The 熱帯林!

【Nさんの手紙】

二、三日前、一通の手紙を受け取った。法律関係の出版社に勤めるNさんからだ。彼は八九年の夏、私たちが初めてサラワクに入った時、そのプランを聞きつけて是非同行したいと言ってくられた。たった四年前ではあるが当時、先住民とのコンタクトやルートもはっきりせず、私たちにしても先の見えない不安な旅立ちであった。

帰国後しばらくして、Nさんは東京大学の大学院で「アジア学」を勉強することにしたとのあいさつ状を下さった。



◎HIROKO ONISHI 大西裕子

【ウータン活動報告】

- 93.1.10 ウータン総会、プロボノ・センターで
- 1.24 「琵琶湖環境ネット・シンポ」で永田が「熱帯林の破壊と私達の関わり」講演
- 2.27 「三菱化成の公害輸出を問う会」の国会議員報告会に協力
- 3.3 「自然と緑を守る府民会議」の「サラワク現地報告会」に参加

今回の手紙には、東南アジアにおけるイギリス法の継受の勉強の仕上げに、四〇日ほどマレーシアに行くので、何か調べてくることがあれば言ってほしいという旨の言葉とともに、「……こんなことを調べるようになったのも、みなさんのサラワクでの調査にご一緒させていただいたおかげです。……」とあった。

思えば、私が本気で英語をやりはじめたのもこのサラワク行きがきっかけなのだ。

病嵩じてしばらく日本を離れることになった。又、必ず戻ってくるからという誓約つきでサヨナラ。

。大西さん、話を聞いてもらってほしい。

ウータン同

森の通信

HUTAN 27号 目次

CONTENTS

93年ウータン総会・今後の方針

坂本良五のサラワク報告 (NEW)

3

連載①熱帯林問題へのアプローチ「猪俣栄一」

4

ウータン・ニュース「カンボジアの森林保護」

6

「学校家具を国産材で」加賀瀬みどり

10

三菱化成の公害輸出を許さない！ 井下祥子

13

ネットワーク⑤「熱帯林きょうと」在岡敬子

14

本紹介「生命あるものために」田村美智子

お便り紹介

15

ウータン物品紹介 + お便り紹介

16

会計報告・会費・カンパ納入者名紹介

17

ウータンアートギャラリー⑥ 佐藤啓子

18

19

DESIGN/KEN'ICHI "ZOO" NAGATA

93年ウータン総会・今後の方針

【事務局長・西岡良夫】

●一月十日、猪俣栄一さんをゲストに迎え、十五名がプロボノ・センターに集まって『ウータン総会』が催された。

ウータンの昨年の成果と反省の中で、「一府五市が熱帯木材使用削減政策を打ちだしたが、今後ともコンパネなどの使用削減についての継続的な話し合いが必要で、どれだけ進められるかが問われると思う」とみんなが一致した。

また「コンパネは一般的に知られていないので、熱帯材使用の三〇%以上が家具等に使用されているため、使用削減には家具への取組みが必要」と事務局から提案。

熱帯木材使用削減キャンペーンは、全国的な取組みの中で大阪はうまくいっているが、サラワク州の伐採量は九一年に比べて九二年も余り減っていない事が問題だ。国際熱帯木材機関（ITTO）で九二、九三年の伐採は一六五〇千㎡とサラワク州が約束したが、九二年の伐採量は一八〇〇千㎡と増加し、

サラワク州から日本への輸入量は一・六%減（九二年前年比）のみ。（左表参照）
このことを考えて「ウータンでは更に進んだ『熱帯林保護キャンペーン』が必要だ」との会員からの意見。また、「ウータン経費節減のため、未納入者に対して発送を見合わせる」との事務局案に「次年度から会費を上げることがあがった。」

92年の南洋材丸太輸入数量

産地	材種	前年比	92年	
			数量	変化%
サバ州	2,063	-19.9	120.7	
サラワク州	6,363	-1.6	163.8	
小計	8,426	-6.8	184.5	
フロモン	309	+65.1	3.1	
PNG(ニューギニア)	1,161	+41.8	11.6	
ベトナム	91	-57.9	0.1	
ミャンマー	121	+2.2	0.1	
ラオス	131	+339.5	0.1	
カンボジア	361	+67.5	0.4	
総計	9,969	-1.4	100.0	

***九三年度案**

- ①引き続き自治体キャンペーンを
- ②サラワク等現地との交流、情報入手

- ③シベリヤ等針葉樹林破壊研究
- ④家具のリサーチ（熱帯材家具の使用量・流通、家具リサイクルの現状、自治体・市民意識調査など）
- ⑤熱帯林保護の啓発・PR
- ⑥月例会を行う

- ・三月二七日/サラワク報告会
午後五時 アピオ大阪で
- ・四月下旬/サラワク先住民からの報告（予定）
- ・五月中旬/野外観察会
- ・六月上旬/全国熱帯材会議を静岡
- ・七月中旬/シベリヤ製材見学



▲1月10日、7°プロボノセンターでのウータン総会

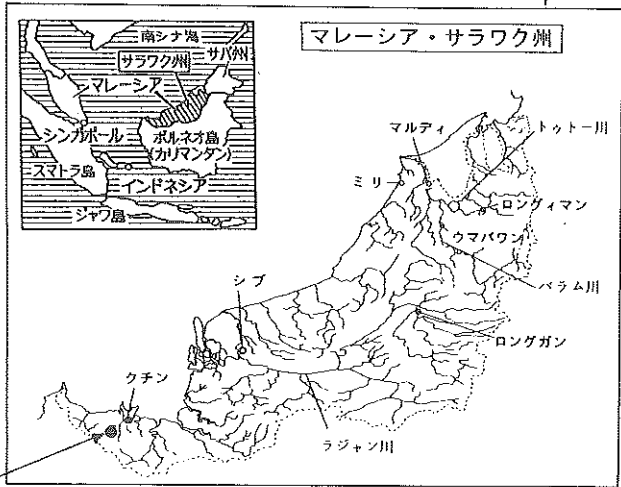
フリーライター
坂本良五の
Ryogo Sakamoto

SARAWAK サラワク NEW 報告!



● サラワク滞在、延べ1年以上におよぶ坂本さんのサラワクレポートの一部をここにご紹介いたします。このレポートは昨年、'92年10月5日～11月12日にサラワクに入った時のものです。

坂本さんはレポートの冒頭で「サラワクを環境に関する最悪の問題はプランテーションです。人権に関する最悪の問題もプランテーションです。もう、サラワクだから伐採、伐採とだけ騒ぐのはよそうとは思いませんか。」と書いておられます。「サラワクでのプランテーション、考えみませんか？」



カンボン・オパール

カンボン・オパールはビダユ人の村だ。クチンからわずかに40キロ。車で行けるから今までの村々と比べたら何となくサラワクらしくない。やはりサラワクは川だと思う。それでも幹線からは10キロくらいは離れているから共同体の良さはまだ失われていない。

クチンからわずかに40キロ。こんなところで未だに伐採が行なわれているなんて全く知らなかった。クチンの近くからインドネシア国境にかけてウンタン山脈が走っているのだが、その分水嶺が伐採により破壊された。飲料水である川が汚された村人たちは道路封鎖で伐採を中止させた。

実は、この道路封鎖もはるか遠くロングガン村のガラ（こあら9号、10号参照。ロングガンはサラワクで最も戦闘的な村）が「恐れるな！」とゲキを飛ばしにやってきて行なわれたものだ（話は横にそれるが、ガラは6月から1ヶ月半、ヨーロッパを遊説していた。私もガラを何としても日本に呼ぼうと思っている。サラワク＝ウマ・バワンとだけ思われるのはたまらない）。闘いの甲斐あってか、木材会社も伐採一時中止に応じた。

ここを訪れた翌日、村の人と一緒にウンタン山に登る。稜線近くまで上るとチェーンソーの音が聞こえてきた。あれ!? 伐採は一時中止したはずじゃなかったのか。不審に思った私たちは音の方向へと向かった。そこでは5～6人の労働者が労働者用の小屋作りの作業をしていた。村人の一人が尋ねた。

「あんたたち、ここで何をやってんだ？」

「いや、俺らはただ会社からここで小屋を作れといわれているだけだ」

こういうことだった。木材会社は伐採一時中止に応じたものの、どうも本気ではなかったらしい。それまで雇っていた労働者を全員解雇して、何も事情を知らない違う村の先住民を新しく雇用したのだ。新しい労働者たちは会社からいわれたままに稜線で作業をしていた。ただ、彼らにとって一つの不幸だったのは、そ

の作業第一日目に私たちと偶然バッタリと会ってしまったことだ。

「いいかい、あんたら、よく聞けよ。この土地はな、俺たちカンボン・オパールが権利を持っている土地なんだ。あんたらも金が欲しくてここで働いているのはわかるが……」

特に怒鳴るでもなく、一言一言さとすように労働者にこの土地の大切さを説明する。このへんがサラワクの先住民のいいところ。作業第一日目にして、いきなり仕事の中断を余儀なくされた労働者は少し不幸だったが、村人はこれで取まらない。即座にバリケードを作り始めた。正午まで車を待ったが来なかったので、また明日来るということで山を下りた。


ニューテイさんの家に戻ると、ニューテイさんもちょうど町から戻っていた。警察署にまでいっていたという。

「ひどい話さ。何で警察にまで行ってきたと思う。木材会社のマネージャーが「カンボン・オパールには伐採の補償金として既に5万リング（約250万円）払った」と警察署長にまで情報を流していたらしい。警察が事の真偽を確かめるために私を呼んだってわけさ。ウソもはなはだしいよ。仮にだ、それが本当だとしても、ここの全家族（150家族）で分けたらいくらにもならない」

ウンダン山を歩いている時に、数キロ遠くにいくつかのハゲ山が見渡せた。ただのハゲではない。山肌をなぞるようにグルグル模様(スラッシュ)の道が作られている。プランテーションだ！なぜ？この伐採に抵抗している村でなぜ一方で伐採以上の環境破壊であるプランテーションを受入れているのか？ニューテイさんにきいた。

「もちろん、プランテーションを受入れているのは村人のほんの一部だ。彼らは自分の土地をSALCRA（サラワク土地統合復興機関）に25年契約で貸したのさ。政府の『開発』だからいいものだと思って合意書にサインしてしまった。だけど、そこで働いて一日たったの8リング（400円）だよ。月に半分働いたとしても120リングだ。それに25年契約といたって、25年間農薬づけにされるんだ。そんな土地でまた自分の農業ができるのかね」

ここにサラワクの先住民の一つ決定的な問題が表わされている。あまりにも、『開発』という言葉に将来にバラ色の夢を抱く。プランテーションの会社の甘い言葉に簡単にだまされる。常識で考えて、誰も一日8リングの労働者になんかなりたいはずはない。だが、実際にそれがサラワクのあちこちで起こっている。なぜか。先住民の意識が余りにも低すぎるのだ。自分の村を一步出たところでの社会構造をほとんど何も知らない。『開発』の中身はほとんど知らないが、『開発』という言葉の響きにだまされる。

昨今の『地球に優しい』洗剤やシャンプー、石鹸などのコマーシャルを見るたびに憤りを覚えるのだが、それはまた、あとで後述することにしてしよう。

おわり

◆3月27日④大阪・森え宮「アピオ大阪」において「阪本さんの報告会」があります。是非お越しを!!(スケジュール参照)
 *このレポートは阪本さんの私信である「こあら通信14号」から掲載させていただきました。
 もっと詳しくお知りになりたい方は ウェブ・永田まで(0720-81-4939 Tel.Fax)

連載

にあたって

①

熱帯林問題へのアプローチ

● 徳島熱帯林問題研究会・猪俣栄一。

【林業とは何か】

電ケ関の農林省ビルの一階に本屋がある。さすがに本家本元だけあって、農業関係だけでなく、約三十冊に近い林業関係、森林関係の一般向け出版物が並んでいる。そのうち、約一割位がいわゆる「自然保護」サイドの人が書いたもので、あとは、私が「林業サイド」と呼ぶ人達の書物である。

「林業サイド」というのは、我が国林業の総元締である林野庁をはじめ、そこから予算配分を受けてさまざまな林業行政を実施している自治体の林業担当部課、森林組合、その組合構成員たる林業資本家や、農家林家と呼ばれる小規模林業家、実際に林業作業に従事する作業員達、はては林道建設をやったり、林業専門の重機類の製造・販売をやっている人達まで含めた言い方である。

で、その林業サイドの人達が書いた書物の前書きによると、表現の違いこ

そあれ、ほぼ同じ意味のことが書かれている。いわく、「林業とは、木を切ることから始まるのではなく、植えるところから始まるのだ」と。

私は長年、日本の自然林を守る運動を続けてきた中で、この言い分こそが林業サイドの最大の偽隣だと主張し続けてきた。その理由は、この連載のテーマからはずれるので言及しないが、もし、かりに林業サイドの言い分が正しいとすれば、然らば日本が戦後四〇年近く東南アジアの熱帯林地帯でやって来たことは、一体何であったのか。

【熱帯林業とは何だったのか】

熱帯林業という言葉がある。字義通りに解釈すれば、熱帯において行う林業、つまり熱帯林における林業経営ということになる。現に「熱帯林業協会」という、レンキとしたコンサル協会まであった。もし、林業サイドの人が書いているように、林業とは樹を植えることから始まる

いのまた・えいいちさん
昭和2年生まれ。35年
ごろから兵庫、奈良両県で自
然保護運動に取り組み。44
年、小松島海上保安部勤務と
なつてから徳島在住。徳島の
自然林を守る会を結成し、県
内の自然林保護運動を進め
る。環境庁議事会代表。県自
然保護協会理事。日本自然保
護協会員。小松島市大林町
森の本26-24。



のであれば、日本の行って来た商業伐採が今日これほど非難的にはならなかったであろうし、日本の商社資本が「熱帯林業」を行った跡地がかくも裸地化していなかったであろう。とする、日本が熱帯林で行って来たことは、一体何であったのか、と再び問いかけてみたい。

つまりそれは、決して林業と呼べるものではなく、単なる森林からの木材資源の収奪だったことに他ならない。ただ、こういう言い方には当然のこ

とながら反発が出る。というのは、土地(森林)所有制度のあり方と、それに伴う「林業」という「営業」を行うこととの困難さ——というよりも実際には不可能であったという反論ないしは言い訳である。この言い訳も、現在進められている、主としてパルプ資源造成を主目的とした早生樹種^{※注一}の一斉造林の考え方を見ていると、どうも胡散臭いのではあるが……。

しかし、言葉を飾らずに率直に言わして貰えば、今日、熱帯林保護運動(ないしはそう思われている諸活動)に取り組んでいる日本のNGOの人達の多くには、土地(森林)所有制度と火山とがどういふ関係があるのか、今日かなりな勢いで進められ始めた植林が何故胡散臭いのか、よく理解できてない点があるのではなからうか。

もっと単的に憎まれ口を叩くとすれば、現在もてはやされているのは、決して本来の熱帯林の持つ自然環境の回復などではなく、早生樹種造林という名の新たな収奪に過ぎないということ、一方では現在NGO達が進めている先

住民の権利保護運動が、本当の意味での熱帯林保護につながっているのだろうかという指摘をしておきたいのである。

※[注一] 早生樹種——ユーカリ、カリ

ビヤマン、メルクシマツ、カメ

レレ、アカシヤ、アルビジア

ファルカタ、イビルイビル等

【熱帯林破壊の原因】

私が、JATANA等が呼びかける「自治体キャンペーン」なるものの一環として、せめて奥地の林道建設の際に使うコンパネ(奥地林道は概ね急峻な山腹を削って作られるために、下部擁壁^{II}切り取り法面の法尻土留工^{II}や路肩保全工事のためにかなりなコンクリート構造物が造られ、コンパネが使用される)ぐらいは、建設現場近くの捨てられる間伐材を利用したスギ型枠を使ったらどうかという申し入れを、徳島県の林道担当課に申し入れ、話し合ったことがある。

その時に、ある林業議員が私にこう語った。

「熱帯林の急速な消滅とか、保護とかが毎日のようにいんなメディアで取り

あげられているが、実際にはどんな状況なのだろうか。自分も林業議員仲間と東南アジアと南米へ行ったことがある。両方併せて一カ月足らずであったし、飛行機から見るのが多かったので、実態は殆ど判らなかつた。

しかし、テレビや新聞等の特集というものは、はじめからテーマを決めて、それに適するシーンだけを取材して放映・報道されているのが普通であろう。だから、特定のテーマや先入観によらないで、公正に実態を明らかにした本でもあれば、ぜひ紹介してほしい」と……。

つまりこの議員は、一見、公正で中庸で妥当なことを言っているようだが、実は、さまざま熱帯林破壊に関する報道は、先入観と偏見に満ちた不公正なものが多くて信用ならんということ、暗に強調しているのである。

こういう見方、考え方は、何も田舎のオジサン議員に限らない。自民党の偉いさんや、外務省や林野庁の役人、木材輸入協会の幹部とか、実際の輸入を手がけている商社の人とか、果ては

JICA (国際協力事業団) やオイスカの連中まで、多かれ少なかれ、田舎の林業議員と似かよった見方をしていようだ。

一方で、熱帯林を守ろうという純粋な情熱に身も心も灼かれるような焦りから来て活動している人達の方も、一体、熱帯林の膨大かつ急速な消滅の本当の原因は何なんだろうかと、よく判らずに不安になっている人も多いであろう。原因がよく理解できぬまま、先達のあとについて「自治体キャンペーン」や「先住民キャンペーン」に走り廻っていても、一体それが本当に熱帯林保全に貢献しているのかどうか、貢献しているとしても果たしてどの位の効果を上げているのか、サッパリ判らないでやっているという状況ではないのだろうか。そして、同じ手間とエネルギーとお金をかけて活動するのなら、もっと効果的なやり方があるのではなからうかとか、今やっていることが本当にベストなのだろうかと、悩みながら活動している向きもあるようだ。

「熱帯林破壊の三大タイプ」

熱帯林が急激に破壊された原因というのは、大維把に言って三通り考えられる。そして次号以下で述べるように、世界に分布する三大熱帯林地帯では、それぞれ主原因が異なっているのである。

熱帯林消滅の原因の第一は、大規模なエステート(大規模農園)のための転用である。これはアメリカのファースト・フード社、デルモンテ社というような多国籍食品会社が、世界各地で行っているが、近年では南米の多雨林で多く見られる。

第二は、大都市(特に首都圏)に流入集中している「国内失業者対策」として政府によって行われるトランス・イミグレーションのための、農地への転換である。カリマンタン(インドネシア)等のアジア多雨林地帯では、日本の資本が引き揚げたあとの伐採跡地や、伐採用道路沿いに入りやすくなったコンセッション*〔注二〕切れ二次林等に、ジャワ島からの移民が大量に送り込まれ、農地に転換されている。

しかし何と言ってもこの種の破壊が膨

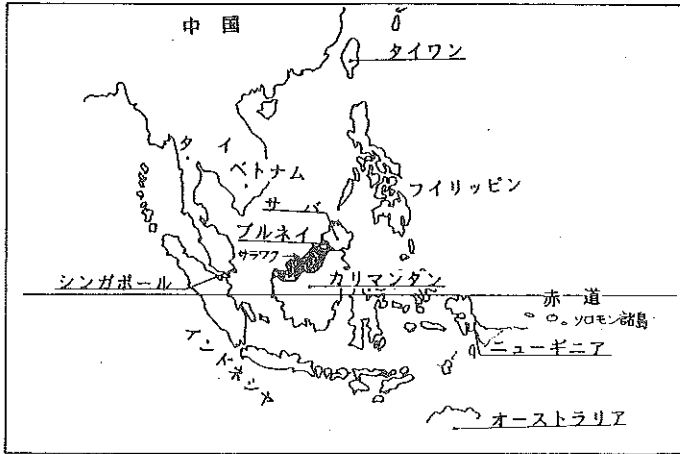
大なのはブラジルであろう。十数年にわたる人工衛星の映像を比較してみると、その凄まじさに背筋が寒くなるのを憶える。しかもここでは、伐採跡地なんかでなく、真正銘の原生林が借しげもなく切り倒され、焼き捨てられているのである。そのうえ、この手の超大規模破壊には、開発援助という美名の下に、長年にわたって世界銀行等が手を貸していたのである。

三番目が、私達日本人に最も縁の深い商業伐採である。主としてフィリピンから始まり、マレー半島、イリアンジャヤ(ニューギニアの半分)やインドネシア、旧英領北ボルネオ、パプア・ニューギニア、インドシナ半島、ソロモン諸島と、アジアのほぼ全域にわたって、その爪跡を残している。

日本の商社資本による商業伐採が、アジアの熱帯林、とりわけ再生困難な多雨林帯の消滅の主原因をなしているという主張に対しては、我が国の外務省、林野庁、南洋材の開発・輸入に關与していた商社で結成している日本木材輸入協会南洋材部会や南洋材協議会、さらには林学関係の学者から、果ては

*〔注二〕コンセッション………何年かにわたって森を切る権利。

サラワク州位置図と周辺諸国



森林生態学の研究者に至るまでが、決して認めようとはしない。その前非を悔いて出直そうという精神に欠けた態度こそ、アジアの熱帯雨林をこころで追いつめた最大の原因なのに……。

その他にも鉱業開発とか、焼畑移動耕作とか、天変地異によるものなどがあるが、それは別の問題として本文中で触れることとしたい。

【熱帯林問題は

自分の頭で考えよう】

この連載では、熱帯林とはどのようなものなのか、その分布域、熱帯林の色々なタイプ、各タイプの特徴、樹種構成それを特徴づける気象条件や土壌特性、そして熱帯林がいかにデリケートで壊れ易く、かつ、いったん破壊されたらどんなに再生が困難かということ等、熱帯林へ足を踏み入れたことのない人、当分の間、足を踏み入れるチャンスのなさそうな人にも、「熱帯林で、そんなものか」と、輪郭だけでも判って貰えるようなことを書きたいと考えている。

そして更にスペースがあれば、日本がそこでやって来たこと、これからやろうとしていること、熱帯材の使われ方、南洋材貿易の仕組み、最近になってやっと言われ出した不正貿易とはどんなものかということにふれ、そこから読んだ人が自分で、今やっている活動でよいのか、もっと別の事をやる必要があるのか、というような点を引き出せる参考になれば幸いです。

(つづく)

※次号より本論に入っていきます。おたのしみに……



▶アジアの大規模農場の例

〔写真*デルモンテ農場とは〕

農場の管理者は「以前は一面が森だった」と言った。先住民マノボ族を追い払いデルモンテ社は、一九二六年に米軍で圧力をかけ八千haの土地を一九三七年に借入れた。その後、次々と借地を増やし、パイン、カカオ等を栽培。多農薬、多肥料の地となった。〔西岡〕

JVC(日本ボランティアセンター) 岩崎美佐子さんに聞く*(西岡)

Q..カンボジアでは昨年末に木材輸出禁止になった。先日三井物産が違法行為をしたと新聞に載っていましたか。

A..そうよ、三井物産だけでなく七社がタイ経由等で輸出している。UNT

カンボジアの苦闘

◀第1部▶

冷戦後の世界

いま、何か起きているか

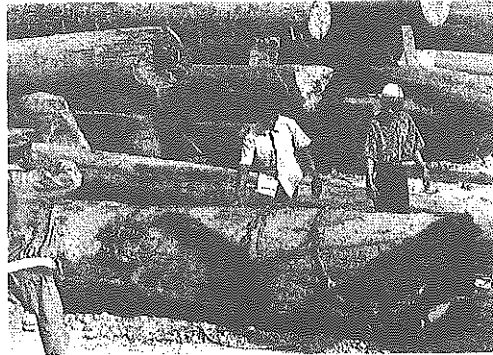
このころ、カンボジアの自然が壊れかじ。今年はその部では広がりが、昨年は中、南部が大洪水に見舞われた。

パリから昨年、久しぶりのリライ三派が群雄割拠する地に開国したラナット派(シヌーク派)政界、F U N C I N P E C C の幹部、サム・ランシー氏等は、以前見られなかった異変の原因を森林の乱伐に求めた。

「乱伐で生態系が崩れた。このまま乱伐が進めば、五十年後のカンボジアは砂漠になってしまう」と、やベトナムのシンガポル、日本などの業者と契約を結び木材を輸出してきた。ある業者は「最近、どの林区の利権を取れるかは政府高層へのリベートの額によって決まるようだ」と語る。

カンボジアの責任はカンボジアの紛争四派すべてにある。各派とも軍資金を外貨を稼ぐため、それぞれの支配地

軍資金稼ぎで森林乱伐



製材所に山積された原木。カナル川沿いの製材所で、岡本徹撮影

4派、日本などに売却

梟はタイやベトナム向けに、残された森林の宝庫を、り少ないもの、日本の住 求めてアジア各国の業者が 宅や家具にもカンボジアの カンボジアに殺到し始めた。 木が使われているのだ。こ のは、停戦機運が盛り上が るの事実を私に告げて知り、 った昨年初めころから、と 複雑な気持ちで働いた。 いわれる。 乱伐に対してカンボジア

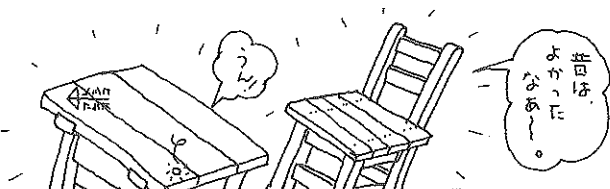
ACが来ても、各派の軍資金調達のため。 Q..聞くところによると、カンボジア政府軍もベトナム経由で密輸してると。 A..はっきり判らないけど、ここ二、三年でポルポト派も政府側もどんどん森を切りまくった。名古屋、広島、大阪などに輸入されている。 日本は突然ODAを出して、「農業

援助」するという。カンボジアでは農薬が今まで使われていないので、生態系をさらに破壊することになる。 Q..自衛隊やUNTACが来て変わった点は。 A..第一に物価高。それから「売春」問題。現地住民の生活に打撃を与えている。 本当の「国際貢献」が問われる。

学校家具を国産材で

◆環境サークル・自然の友
加賀瀬みどり

こんにちは、「ウータン」に投稿を
させてもらったのは一年ぐらい前にな
るでしょうか。「長野県の林業と熱帯
林破壊の関わりを調べたい」、などと
エラソーなことを言っていたのですが、
さっぱり進展がなく、どうやってアプ
ローチしたらいいかわからずにいた
時、「ウータン」紙上で知った長野県
峰の原高原の福永さんに会いました。
JATANA名古屋が行った「学校家具
を国産材で」というのをやってみたく
けれど、手伝ってくれないか、と頼ま
れて「こどものじゃんぐるの試み」を
引き受けることにしました。生協の環
境サークルの友人たちも面白そうだか
らと参加してくれました。
JATANA名古屋からもらった資料
を土台にして皆で話し合い、アンケ
ートを作りました。県とか教育委員会と
話をするから、客観的な資料としての



◆教育委員会アンケート集計より◆

- 1 現在、貴教育委員会管轄の小、中学校では、児童、生徒用の机、椅子としてどのよう
なものを使用させていますか。
- | | | |
|--------------------|-----|-----|
| 国内産の木材を主原料とした製品 | 4% | 3件 |
| スチールないし金属を主原料とした製品 | 10% | 7件 |
| 合板とスチールで作られた製品 | 86% | 61件 |
- 2 現在、学校教育現場で熱帯材から作られる合板を多用した製品が使用されていますが、このよ
うな状況をどうお考えですか。
- | | |
|-----------|-----|
| 好ましい | 3% |
| 好ましくない | 35% |
| どちらともいえない | 62% |
- 3 学校家具の選択時に国内（県内）の製品を採用するように配慮なさっていますか。
- | | |
|----------------|-----|
| している | 23% |
| していない | 45% |
| 配慮したいが現実にはできない | 31% |

◆森林組合アンケート集計より◆

- 1 現在、学校教育の場において、児童生徒の使用する机、椅子などが主に合板（熱帯材）を材料
としたものを採用していることについてどうお考えですか。
- | | |
|-----------|-----|
| 妥当なことだと思う | 12% |
| 望ましくないと思う | 88% |
- 2 机椅子などの材料を合板から国産材へと転換した場合、国内林業の振興策として効果があると
お考えですか。
- | | |
|-------|-----|
| 効果はある | 92% |
| 効果はない | 8% |
- 3 もし転換されるとしたら、貴組合としては積極的にその生産に対応されますか。
- | | |
|--------|-----|
| 対応したい | 85% |
| 対応できない | 15% |

熱帯木材の30%程が家具に使用されている。ウータンでも家具の使
方の見直しを調べようとしているが、名古屋、静岡、京都、長野のグル
ーは学校家具の熱帯木材を見直しを始める試みを行っている。

価値があるものを提示することが必要になるだろうという意見が出て、現状の調査、意識調査というスタイルになりました。そしてようやく九月下旬に長野県下の一二の教育委員会と四六の森林組合にアンケートを送付しました。

長野県はご存知のように山国で、長野市や松本市といった所にもちゃんと森林組合があります。だからこういった企画があれば、意欲的に参加できそうにも思われます。しかし、何にもましてショックだったのは、アンケート用紙いっぱいびっしりと書かれた「このままでは食べていけない、若者はみな町へ出て行ってしまい高齢化が進むばかりだ、山を守ることすらできない」という、悲鳴にも似た林業者の声です。前にも書きましたが、植林された山は下刈りや間伐という手入れをして年月をかけて「製品」になります。そのあいだ間伐した木を売って生計をたてるのですが、今では外材に押されて「山に生えている木はただ、切り出すのに経費がかかって切りだせば赤字

になる」（川東森林組合長・談）という状態だそうです。そのため山は放置されて荒れて、保水力の弱い災害の起きやすい状態になっています。

アンケートをとってみて気がついたのですが、教育委員会というのは「行政」なのですね。「予算の範囲で購入しなければならぬから」という記述が目立ちました。関心も低いようです。中には、「勉強不足でよくわかりません。これを機会に勉強したいと思いません」という素直な方もいました。それでも「金銭的に同じくらいの国産の製品があったら、使用してみたいですか」という設問に対して、価格耐久性等の条件付きながらも「使用してみたい」と答えた教育委員会は八〇%ありますから、「価格」が一番の問題のようです。二番目に「情報」でしょうか。私たちはJ.A.T.A.N名古屋から静岡工業技術センターの松谷治先生が開発した「公共用学習環境家具」のカタログをもらって、とても気に入りました。杉や檜の間伐材を使ってあり、幾つかのパーツに分かれていて、子どもの成長

に合わせて、子ども自身が組み立て直すことができます。もしも破損した場合には破損部分を取り寄せて交換することもできるという、大変合理的でまたデザインも洗練された逸品です。こういった製品もあるということを知らせることも必要でしょう。

アンケートの集計を進める一方で、福永さんと私たちは県内産の家具を作ってくれるところを探して、あちこち歩き回りました。しかし森林組合は、「材料は供給できるが家具は技術的に無理」と言われ、松本市に作れる業者がいるという話を聞いて、城北木材加工有限会社の峰村さんに会いました。

「私はこの仕事を始めて六〇年になります」という峰村さんは、カラマツという素材へのこだわりと、無責任な行政への不信を率直に語ってくれました。松谷先生の家具のカタログをお見せすると「非常におもしろい、ぜひ実物を見たい」ということで、福永さん、峰村さんと静岡まで行くことになりました。現在、峰村さんと協力してカラマツを使った学校家具を開発中です。

三菱化成の公害輸出を許さない!

ついに国会議員(超党派)がマレーシアへ現地調査に

以前、「君ちゃんへの手紙」などでお知らせした、三菱化成の出資するマレーシアのARE社は、放射性廃棄物公害のため、操業停止の判決をうけた。

しかし、それからでも2名の子供が亡くなった。そして会社側は上告し、操業再開をねらっている……。

そんななかで、この1月に、超党派の国会議員と市民団体がブキメラ村へとび、住民や労働団体、それに政府当局者などと話しあった。

2月27日、その報告会があった。ビデオ(テレビ放映されたもの)とスライドによる現地報告のあと、調査に参加した粟森喬参議院議員が報告。三菱化成が撤退しても、マレーシアでは人手不足のため、失業問題は起きている心配はないこと、放射性廃棄物は密閉するしかないが、あれだけのものをすべて現状回復するのは経済的に無理なので、中国など、他に補給ルートがあれば撤退をかんがえているだろう、などの報告があった。

「三菱化成の公害輸出を問う関西の会」の五十嵐文人氏は、「おとし行ったとき会った子供が今度はいなかった(亡くなっていた)のが、なんとも残念だ。自分にできることをやり続けて

いかねばと思った。

現地の人々の暖かい歓迎が胸に迫った。責められて当然なのに……。村から出ていかざるを得なかった人が三千から四千人もいるとのことだが、その追跡調査ができないのは残念だ。胸がいっぱいでこれ以上話せない」と語った。

また、同じ会の代表、原田恵子氏は、ARE社の廃棄物処理のずさんさの例として、「すこし離れた丘の中腹に、『恒久備蓄場』をつくった。しかし、放射能のラドンガスは重いので、もし漏れたら、村にガスがおりてくる。本来なら低いところにつくるべきなのに、丘の中腹につくること自体おかしい。そのまわりに、畑や浄水場があるので、万一漏れると汚染されるし、野菜を買った遠くの人々も被害をうける。この備蓄場をつくった年だけ、会社は赤字計上をしている。つまり、アジアにおいても、きちんと公害対策をすれば儲からないということだ。現地の人が一番望んでいるのは、工場閉鎖であるが、その後の、医療などの補償をどうするかも問題だ」

「進出企業問題考える会」の佐久間氏からは、

*今まで市民団体が動いてきたが、今回、日本の国会議員がはじめて現地調査に行ったことは大きな意味がある。

*半年間の操業停止でも、放射線量は三分の一に落ちてきている。

治療にあたっているジャヤバラン医師は「症状の重い子供は疎開させたい」といっている。とにかく現地の人には会社の撤退をのぞんでいる。

*三菱化成の内部にも、「和解派」と反対派がいる。

化成としては、最高裁の判決がおりるのを待って、動くだろう。「責任なし」の判決を得たうえで地元住民の反対や世論を考慮して逃げ出すのではないか。といった指摘があった。

最後に、「三菱化成の公害輸出を問う関西の会」よりのアピールがあり、「会の名称に、AREとも、マレーシアともいれないのは、どこで公害輸出をしても、地のはてまでも追いかけて問いつづけるぞ、という意味です。『日本でやってはいけないことを、外国でやるな』という単純なことで、特別なことをするわけではありません」

会費は年3000円

(2400円は現地の医療基金に600円は会の活動費・通信費)

なお、「関西の会」では、ひとつの取り組みとして、大阪の三菱化成の前で抗議のビラまきを毎月おこなっています。

協力してくださいるかた、問い合わせ

は、原田恵子 06-9481-6121
奥村知亜子 072-2151060

NETWORKS 5

熱帯林きょうと

KYOTO

在尚敬子(さいまげいこ)

京都府之訓郡大山崎町田明幸東えろ26-3
TEL. 0774(952)7134 まで(後回)

「熱帯林きょうと」ではこれまで自治体キヤンペーンに取り組み、これまで京都府と京都市に対して公共工事・建築における熱帯木材の使用削減の申し入れを行なってきました。その他、講演会や街頭アピールなど小さいグループながらがんばって熱帯林保護運動を展開してきました。

ここで「熱帯林きょうと」の今までの活動を(少し宣伝もしたので)まとめました。

91年10/19 講演会「高層ビルより熱帯林」
JATAN 黒田洋一さん、ウータン 西岡良天さんを招いて、スライドを交えての講演会を開催しました。これがきっかけとなり「熱帯林きょうと」が各自治体への取り組みが始まりました。

10/24 京都府、京都市への申し入れ。

92年1/23 京都府と交渉、回答(削減方針)を得る。

3/9 学習会「熱帯林問題の基礎について」

4/10 京都市と再度交渉。

4/13 学習会「日本の林業について」

5/11 学習会「日本の林業について」②

6/8 学習会「植林について」

7/6 学習会「パニアニューギニアでの日本の熱帯林伐採について」

7/13 講演会「地球サミット1ヶ月後の検証」 京都新聞の大橋晶子さん、弁護士

の大面裕子さんをお招きして。

8/12 京都府へ申し入れ。1少しずつ

取り組が進んでいるとのこと——

8月 メンバーの伊東さん、サラワクへ。

9月 京都府下の自治体に熱帯木材に関するアンケートを実施。

10/19 熱帯林週向イベント「サラワク

では今」と題して伊東直吾さん、疫迎

ずみれさんの報告。

12/21 京都府に学校家具に関する申し入れ。自治体へのアンケートについて記者会見。

93年2/3 京都市教育委員会へ学校家具に関する申し入れ。

2/6~7 「熱帯林きょうと」総会。

今年の目標などを話し合う。

現在に至る。

今後、熱帯林保護の運動をより多くの市町村へ広めたり、熱帯木材不使用条例の制定に向けて動きだそうこの声もあがっていますし、消費者からの運動として木材製品に産地や品種などを明記させることにもぜひ取り組みたいと考えています。

熱帯林保護へはまたまた遠い道のりですが、ウータンの皆さんとも一緒に取り組む、なんど力を合わせてがんばっていきたく思っています。

是非、皆さんのご協力をよろしくお願います。

地元材使用や節約

向日市など10市町から回答
積極的な取り組みも

熱帯林きょうと「自治体アンケート」

地球規模の環境保護の要となる森林資源の確保から、建設用熱帯木材の削減が求められている。同グループ「熱帯林きょうと」は、府と京都市、伊東直吾代表は府内の各自治体に対し、熱帯木材の使用削減を求め、自治体に対して熱帯木材使用に関するアンケートを実施。回答した自治体のなかには、熱帯木材の使用削減に具体的な取り組みをみられた。

本道建築が主流の日本は、熱帯木材の最大輸入国だが、採地のマレーシアやインドネシアでは乱伐による

BOOK 紹介……

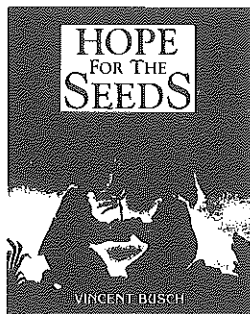
PAIGIASA 基金の原田恵子さんが
母世になり出来上がったものを。

生命ある もののために

付・アメリカ先住民チーフ・シアトルのことは

原田恵子編

田村美智子 タシナ・ワンプリ ほか訳



同時代社

定価 1700円(本体1650円)

「生命あるもののために」を翻訳して

田村美智子

「その頃天には太陽が八つ、月が八つあり、地上はいつも明るく、光に満ちあふれていました。ある時にしきへびが、八つの太陽、八つの月を、次々と飲み込み始め、やがて太陽が一つ残るだけになり……。」

フィリピンの少数民族に伝わる民話を語るころからこの本は始まる。外面的な体裁から言えば絵本だが、これは子供の絵本ではない。フィリピンでは識字率の故に、絵本が、大人の社会

の有効な伝達手段となっているのではなからうか。環境(地球)破壊が急速に進む中で、環境を破壊する国、破壊される国と、二つの力関係が存在するが、これは破壊される側からの発言である。

翻訳をしいて最も面白く感じたのは、「あとがき」の「世直し」に関する部分である。環境破壊の現代の世直しを語る時に、政治や経済のシステムの変革をあげるのは、誰でもすることであるが、この本の作者は政治、経済の変革と共に、「シャーマンの感性」が必要であると語っているのである。そして「シャーマンの感



「山の少数民族は狩りをし、食べ物を採り、小規模な耕作農業にたずさわりました。そして森という共同体に生きるすべての生きものと、食物や住み家や、身につける物やぬくもりを分かち合うことを学びました。人々は、森の友人となったのです。」

性」をもって世直しをはかった指導者として、モーゼの名をあげている。彼の指導の下で民衆は、環境(オアシス)を破壊することなく遊牧の生活を続けたのだと。「シャーマンの感性」なくしては、あの脆弱なオアシスをまもることはできなかったであろうと。かって私達は、環境破壊を阻止する知恵と力を持っていたのである。

(株)同時代社 東京都千代田区西神田2-1-16

Tel. 03(3261)3149 Fax 03(3261)3237

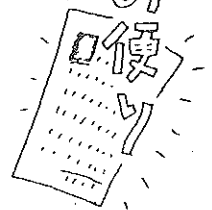
・ウエブでも報じています。

*この本に際してのお問い合わせは、Tel. 06-945-9212(夜間)原田まで。

とても元気の出るエネルギーの素、ありがとう。

ウータンに届いたお便り

THANK YOU



※敬称田各せていただきます。

◆先日ある集会で私たちが「人間の大地を読む会」という会のメンバーがコントを

しました。私はティッシュペーパーの役になり自分でセリフを考えているうちに又、ブツブツと守ろう熱帯雨林の気持ちが出てきました。見てくれた人からも好評で「考えさせられた」との声がありました。来年も一歩前進をめざしましょう。

【大阪箕面市・橋本啓子】

◆ウータンを「毎月送っていたけど有難うございます。小さい字が一杯で今更余り読んでいなかったので、最近熟読するようになりました。私は高校で地理を教えています。気候の学習の植生や土壌、農林水産業のところで熱帯林を扱います。ウータンの記事の中に授業の教材になりそうなものを次山発見し、且つ自分の日常生活の見直しをせまうれるものも多いのに気づいたのが熟読をするキッカケです。26号の「シベリアの森の危機」は私もテレビで見えてショックを受けました。ろ学期に生徒にみせようではないか」と、職場でも話し合いました。同封の年賀状も府知事殿に出しておきました。スタッフの皆様活躍をお祈りします。

いかと、職場でも話し合いました。同封の年賀状も府知事殿に出しておきました。スタッフの皆様活躍をお祈りします。

【大阪富田林市・奥村功】

◆「ウータン」の表紙いつも素晴らしいですね。活動への情熱がこれ伝わって来るようです。来年も又送って下さいます。このお正月休みはの読みさせてもらいます。会の御発展を！

【大阪吹田市・永田博子】

◆気持ちだけの送金ですが適宜里会の維持の為、御活動費として御査収下さい。退職した人間ですので生活とみあわせの協力ができませんが、はかりの働まはまだ続けたく、白山の崩壊地の調査したり、木を植えるにいたりしています。

【金沢市・木村久吉】

◆ウータンの皆様お元気ですか？

私は福岡で「明日(アース)を守る会」で代表(早月が長いというだけ)をしています。

専業主婦から仕事をみつけ、パートです。が子供達に英語と環境問題、自然の尊さを伝えようと悪戦苦闘しています。やっと私が働いたお金で会員になれることをうれしく思います。アースの会もニコスタを作っています。ウータンのようにはいしません。とさぎ、こんな忙しい思いをしなくても……と思うときもあります。でも素晴らしい、いろいろな方との出会いを楽しみに気長に……と思っています。

【福岡市・望田敬子】

◆人類も地球もオンリーワン。慰安婦や秋高气高くあおかれず。地球の大害虫が自然保護。すす払い一つ残った永田町。

【大阪河内長野市・北原英一】

◆いつも内容の濃い通信をありがとうございます。90年に初めてサラワクを訪れ現地の人を含む、各国での熱帯林に対する感心の高さに驚かされました。

何よりも「知る」こと……。

HUTANがより多くの人に読まれることを願っています。

【東京渋谷区・布賀理恵】

HUTAN
92年 会計報告
 192.6 / 192.12

△収入の部▽

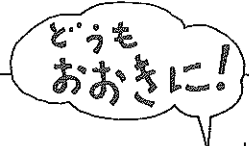
・91年度繰越金	406,945
・92年年会費	144,000
・カンパ	232,779
・講師謝礼	20,000
・集金参加費	15,000
・物品販売、ペナル等貸出料	61,500
計	880,224円

△支出の部▽

・印刷費	164,993
・郵送費	102,583
・雑費(消耗品)	108,338
・会場費	10,500
・事務所家賃	56,000
・講師謝礼	50,720
・ペナル等製作費	105,250
・コンサート経費	42,574
計	640,958円

・残額……………239,266円

【ウタン会計・井下】



会費・カンパを振り込んで
 くださった方 (93年3月1日まで)

【大阪】

- 中岡三津子 (アリアハウス)
- 今井順子
- 海沼由紀夫
- 北阪英一
- 山本万年
- 巻田恵子
- 田中順子
- 大西洋子
- 永田博子
- 奥村功
- 橋本啓子
- 水野真理
- 深町加代子
- 松尾光雄
- 小池一文
- 田中亜子 (天声Y&C)
- 堀口和恵
- 西川勝久 (天声北Y&C)

【神戸】

- 本田次男
- 山口八千代
- 香本明世
- 倉友克美
- 小森富美枝
- 小面妙子
- 藤村ほるえ
- 大亦義朗
- 富崎正人
- 山内小夜子
- 向井千晃
- 小吹岳志
- 恒成和子
- 明岡正和
- 見取徳明
- 福岡千枝
- 田村美智子
- 若木妙子
- 江藤憲子
- 森みどり
- 水野武夫
- 玉山ともよ

【東京】

- 上田直弓
- 山本麻古
- 官野由紀子
- 森本博行
- 永田展雄
- 井上勝え
- 中村尚司
- 鈴木マサホ
- 櫻本慈弘
- 【奈良】
- 由良行基岡
- 【和歌山】
- 五味義明
- 【福岡】
- 望田敬子
- 蓮原耕児
- 村田和子
- 【滋賀】
- 寺川庄蔵
- 【愛媛】
- 伊藤初美

【北海道】

- 三浦誠司
- 【長野】
- 加賀瀬みどり

【千葉】

- 林昭男
- 有賀理恵
- 南研子 (R.F.J.)
- 吉田隆
- 秀島ゆかり
- 松江和子
- 【千葉】
- 善財利治
- 新作裕子
- 【金沢】
- 木村久吉
- 三國千秋
- 【徳島】
- 猪俣栄一
- 谷一能
- 【鳥取】
- 足立節雄
- 【広島】
- 荒川純太郎

◎佐藤 啓子 (さとうけいこ)

1958年、大阪に生まれる。
 1981年、大阪芸術大学デザイン学科卒業。
 (株)ワレ広報部宣伝課退職後、フリーに。
 現在は夫の主宰する「佐藤淳デザイン室」において
 デザイナー、イラストレーターとして活躍中。
 主に「ギャラリーインターホーム」(大阪)のポストカード、カレンダー、
 ステーションリーの企画、制作を担当。
 2児の母である。



HUTAN ART GALLERY
 7-タナノアートギャラリー

6



MARCH 3.27(土) 5:30pm.~8:00pm (場)アピオス阪 (JR.地下鉄森ノ宮下車) 西へスグ

HUTAN ACTION SCHEDULE

＜サラワク報告会＞ 『熱帯林破壊とプランテーション』

【講演】坂本良五さん(フリーライター) 延べ 30スライドを交えて……



●東京より2度目の来阪です。過去、サラワク滞在1年以上にもなる坂本さんの情報は地道な視察の結果であるが、一番信頼のおけるものと限ります。
『熱帯林破壊の最終地帯はプランテーションだ。』と言われる坂本さんの最新のサラワク報告です。今年1月~2月にもサラワクに入っておられます。
*集会終了後、坂本さんと園での交流会もあります。

【参加費】700円

お待たせしました。



APRIL みんなで『炭焼き』に行こう! 【場所】大阪府南河内郡 河内町橋尾付近 南河内・水と緑の会

3.21(日)
↓
3.28(日)
↓
4.4(日)
↓
4.11(日)

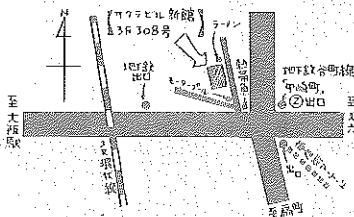
【集合】車……近鉄藤原駅北口ロータリー9時 【持ち物】弁当、水筒、雨具、帽子、タオル、長ぐつ、運動ぐつ、あわん(暖汗ばさ) 徒歩……近鉄富田駅東出口に9時30分 (バスにのります。加納川下流) いつでも参加OKです。 *1回同前に参加の連絡下さい。
【参加費】大人500円、子供200円(園し券あり) *連絡先) 0729-54-5553 平尾……(雨天の時もAM7:30頃お会い合して下さい) 0723-35-3893 石川まで

「ウーたん」が……

いつもウーたんを支えて頂き有難うございます。誠に恐縮ではございますが、今号から会報「ウーたん」を、又、94年度からは会費を値上げさせていただきますようお願いいたします。91年度の収支を参考に、93年度の収支予算を立てましたところ、会報發送にかける総支出が全会費収入見積りを10万も上まってしまつたのです。これは会費収金の怠慢と自治体キヤンペーンや広報の為に自治体や議員、マスコミ等への会報通信費がかさんでしまったことによりです。現在は、カンパや出前講座などの収入を埋め合わせている状況です。93年は、全会費滞納の方には送付を見合わせることで乗り切ることになりましたが、会報發送以外の活動費を確保するために、今号より一部300円にさせて頂きたいのです。一部につき1500円程が活動費となります。又、94年度より会費を3000円にさせて頂けるようお願いいたします。そうすることで、年間約20万円を他の活動の為に充てられることとなります。以上のことは、今年1月のウーたん総会で全員の方より提案もあり、スタッフ一同、頼みに給となりました。不況の折、申し訳ありませんが、宜しくお願致します。

(奥村知恵子)

【ウーたん事務局】



●ウーたん定例会は、第2土曜日の午後7時半から、関西市民連合「事務局」(上記地図)にて行っております。
TEL:06(3)720-1561 まで。

いっしょにつぎ!

スタッフ大募集! カンパおねがい!

「さう、さうです。現在、今まで未整理だった会員諸氏の名簿整理をしております。するとあるわ、あるわ、やらなあかん作業が……。」
と云うてる間に、「ウーたん」出さなありんでー!とこんな調子でございいます。

HUTAN

